

治療と仕事の両立支援におけるニーズキャッチに関する質的研究

現代システム科学研究科 社会福祉学分野 D3 本田優子

次世代研究プログラムにおける本報告の位置

社会福祉

産業保健
(両立支援科学)

博士論文テーマ(仮)「医療ソーシャルワークを批判的省察する」
主領域：社会福祉の「支援」なるもののなかの権力構造を明らみにし、より民主的な支援を目指す
副領域：博論で扱う対象を治療と仕事の両立支援とし、**複合知の獲得**を目的として設定

【本報告】副領域における課題を主領域視点で実施した研究

1 治療と仕事の両立支援とは

- 病気になった人が自分の仕事と治療をどのように両立していくかを手伝う(病院も企業も)
- 病院の担い手は医療ソーシャルワーカー:MSW
- 内閣府
2017年働き方改革実行計画
- 厚生労働省
両立支援ガイドライン
両立支援キャラクターなどによる普及啓発



2 背景と目的

- 両立支援は病院の現場において十分に普及していない。病院では**両立支援のニーズキャッチが困難**な状況にある。(厚生労働省2016;都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会2016;中村ら2018)
- 患者のニーズがないわけではない(アフラック、キャンサー・ソリューションズ、2018。がんと就労に関する調査報告書)
- 両立支援の要請がない場合でも積極的に患者さんのもとに出向き支援に関する情報提供あるいは支援自体を実施するという**アウトリーチ**を行う病院がある。(担い手は病院の社会福祉の相談員=医療ソーシャルワーカー:MSW)

目的 このMSWの活動をもとに**両立に関するニーズの有無の吟味**および**支援の提示方法の工夫**を明らかにする。

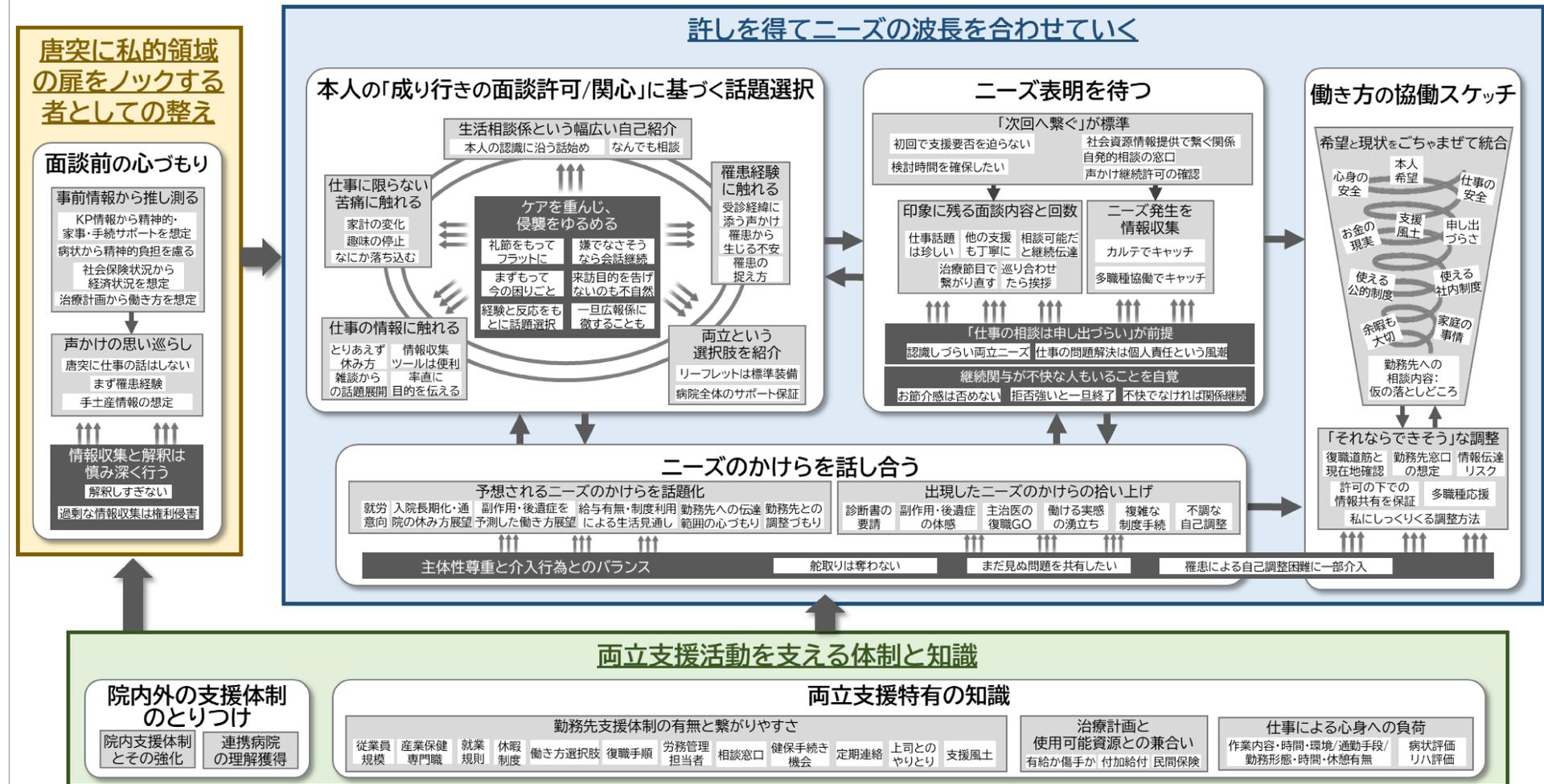
3 方法 (質的調査)

- 対象…アウトリーチをMSWが実施している5病院 5名のMSW(対面3名オンライン2名)
MSW歴3年以上 + 専従MSW歴1年以上もしくは両立支援数が年間10例以上のMSW
- 調査内容
初回面談時は両立支援に関心が無かったが、後に支援を希望するに至った経験事例および模擬事例について、初接触から支援関係形成に至るプロセスを聴取。半構造化面接。
インタビューガイドはアウトリーチのプロセス研究アウトリーチのプロセスに関する文献を参考に作成した。(二宮2017;鈴木2021;三品2021)
- 分析方法…質的データ分析法(佐藤2014)



(A病院倫理委員会承認番号2022-1)

4 本人の成り行きをの面談許可を頼りに、慎重に就労生活に関与しようとする継続的プロセス



5 考察 (両立支援ニーズに接近する要素)

- ① 複数回のアプローチが必要である。
- ② 両立支援のニーズ有無の吟味……【ニーズのかけらの話し合い】を継続する必要がある。
- ③ 両立支援の情報提供の工夫……一方向的な情報提供ではなく、【働き方の協働スケッチ】によって患者さんと波長を合わせながら行なう必要がある。
- ④ 自らの侵襲性・権力性に対する批判的省察を繰り返す必要がある。
- ⑤ 個別支援だけでなく、院内外の支援体制の整備する必要がある。
- ⑥ 両立支援特有の知識の獲得は必須である。

6 成果物(パンフレット・研修企画・動画・論文)



7 主要参考文献

- 厚生労働省、2016。第8回がん診療連携拠点病院のあり方に関する検討会資料2「がん相談支援センターの現状と課題」。
- 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会、2016。がん相談支援センターからみたがん対策上の課題と必要と考えられる対応についてのご報告。
- 中村俊介、2020。労災疾病臨床研究事業費補助金 医療機関における両立支援の取り組みに関する研究 平成 29 年度～令和元年度 総合研究報告書。
- 二宮貴至、2017。ひきこもりに対するアウトリーチ支援、臨床精神医学46(2)、191-197
- 鈴木浩之、2021。子ども虐待対応におけるアウトリーチと対話、ソーシャルワーク研究46(4)、284-291
- 三品桂子、2021。ひきこもりに対するアウトリーチの方法とスキル、ソーシャルワーク研究46(4)、275-283
- 佐藤郁哉、2008。質的データ分析法。新曜社。